

## 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0175700293		
法人名	日本システムサービス 株式会社		
事業所名	グループホームいきいき岩見沢		
所在地	岩見沢市志文町1180-47		
自己評価作成日	平成27年5月15日	評価結果市町村受理日	平成27年10月1日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JievsosyoCd=0175700293-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JievsosyoCd=0175700293-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	江別市大麻新町14-9 ナルク江別内		
訪問調査日	平成27年8月21日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

郊外の自然環境に恵まれ景色の良い場所にホームがあり、地域交流が盛んで、地域行事、老人クラブなど積極的に参加し、地域の一員として心穏やかに、いきいきと自分らしく、それまでの暮らしの延長となる様取り組み、職員は入居者の自己決定を基本にする事に取り組んでいる。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

郊外の小高い丘を開発した樹木の丘陵がある自然環境に恵まれた住宅街にあり、利用者は日常的に近くにある大型レジャー施設など近所を散歩してストレス解消と健康管理に努めている。地域との交流も盛んで、地域の夏祭り・遠足、老人クラブへの参加、中学生の職場体験受け入れなど地域との協力関係を深めて交流している。共用空間は家庭的な雰囲気、職員は明るく笑顔で、食事中も話が途切れることなく楽しんでいる。事務所はリビングに接していて、常に利用者の動きを見守ることができ安全が確保されている。利用者の残存能力に合わせて可能な限り自己決定出来る様に絵文字・ジェスチャーなどで利用者の意向の把握に努めながら、「待つ」介護を合言葉に、一人一人のペースに合わせた本人本位の生活が出来るよう支援している。利用者は率先して調理や配膳をしたり、週1回利用者職員がトイレ掃除を行うなど、互いに協力し支え合う関係が出来ている。職員と利用者は家族のように楽しく過ごしており、理念である「常に利用者が主役」となっている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)		※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します	
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は運営を実践していく上で、立ち戻る基本的な考え方であり、今後も利用者の実情にあわせて生きた方針や目標として理念を具体化し、常に職員に語り、牽引している。	理念を事業所内に掲示して、利用者が「常に生き生きと体を動かし自分らしさを発揮できるように」を職員一人一人が自覚しながら、実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会はもちろんの事、敬老会の役員等を引き受け、会議等にも積極的に参加している。親睦会、連合会のお祭りにも参加し、地域の一員として日常的に交流を深めている。	地域の一員として敬老会や連合会のお祭り等の行事に積極的に参加して、地域との交流を深めている。また、散歩で日常的に住民と挨拶を交わし、買い物などで住民と交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の中学校の職場体験を受け入れ、職員が利用者にとってどうゆう支援や声掛け、立ち振る舞いを行っているかを実際に見聞きしてもらい、将来の職種の幅を広げる事を目的とする。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議内でリハビリを兼ねての公共施設(パークゴルフ・公園等)があると意見あり、活用している。	会議は年6回実施しており、市職員や地域包括支援センター職員、町内会長、民生委員、家族等が参加して、行事や防災などについての報告を行なって、参加者からの情報や意見、助言を得てサービス向上に反映している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者及び職員が月1~2回市の担当者を訪問し、情報収集、相談及びホームの状況報告など積極的に取り組む事を継続して行っている。	市の福祉等の担当者とはまめに連絡を取っており、福祉以外の担当部署との連携も行いながら事業所の情報交換や市からの指導を受けて、密接な関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	新人職員もいる為、身体拘束の意義を理解する為繰り返し、外部研修及び内部研修(DVD)や資料などで熟知しケアに取り組んでいる。	法人研修や弁護士会主催の研修会にも積極的に参加しながら日々研鑽して、職員全体で「身体拘束をしないケア」に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員の精神的ストレスを考慮し状況に合わせて勤務体制を配慮する事でゆとりあるケアに努めている。		

グループホームいきいき岩見沢

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は成年後見制度について研修などを行い、学ぶ機会を多くもつよう進めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時の説明には、時間を掛け十分に行なっている。又退去・転移時状況提供や紹介を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者、職員が窓口となり、〇×式のアンケート用紙等も継続して行っているが、家族からの意見・要望を聞くようにしている。	利用者の意見や要望は、日常の会話、アンケート等を利用しながら把握している。家族に運営推進会議の議事録を送付する時に、家族の意見や要望を得るような手紙を添えて意見・要望を吸い上げて運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング・朝の申し送りにかかわらず、時間外・休憩時間等でも管理者を交えて、話し合う場を設けている。	毎日のミーティングや申し送りだけではなく、業務中での意見や要望を吸い上げ話し合っ運営に反映させている。また、アイデアや改善点を記録に残しながら後の運営に結びつけるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	一人一人の経験とレベルを把握し、やりがいや向上心を発揮出来る環境の整備に努めている。また、給与や勤務条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のケアの質の向上に、本人の力量に合った各種研修の機会を設け、他、職場での役割をそれぞれ持ってもらう。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームとの交流あり、現場研修を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前より数回本人と話し合いを持ち、入居後の不安の解消に努めている。体験入居も可能で、事前に利用者同士の良い関係作りも行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の来訪を受け、施設の玄関から居室・リビングでの利用者の様子を見聞きし、屋内・外の環境雰囲気を感じながら、家族の意見要望を受けとめ職員との関係づくりに配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族や関係者の意見、要望を考慮し必要な支援を確認している。かかりつけ医や馴染みの場所・知人への外出にも対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の主体性を大切にし、職員も利用者と共に調理・食事をする事で暮らしを共にする関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃より通信や来訪時に、日常生活の様子をお知らせし、時折家族も参加出来る親睦会などを設け、家族を巻き込んだ支援に努める関係を作っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者が大切にしていく場所やこだわりの生活歴を大事にする支援に努めている。	利用者や家族からの情報を基に、馴染みの店や美容室等に行く支援を行っている。また、町内会の清掃やお祭りに参加しながら、地域住民との馴染みの関係を築いている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活から利用者同士の関係を把握し孤立しない様、作業・外出時に職員が中に入って、お互いに共通の話題を取り上げて、利用者同士の関わりを持てる様努めている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時、退去後いつでも必要時、状況提供・相談などあった場合の準備は整えてある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日、野外散歩やお茶の時間を十分に設け、会話をする事、各居室に職員が訪ねる時間を設ける事で、本人の希望・意向を汲み取る事に努めている。	ホームの外でお茶の時間を設けたり、会話をしながら散歩をして、考えや表情などから利用者の思いや意向の把握に努めている。また、居室に職員が訪ねた時も素振りや会話から思いや意向を汲み取るよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前バックグラウンド・関係各所から情報収集し、暮らしのパターンやケアサービスを把握し、ホームでの暮らしにつなげている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者個々の生活パターンを把握し、1日の過ごし方や心身の変化・残存能力、動き・表情の変化で把握する事に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族・関係者との話合う機会を設け、カンファレンス、ミーティングなどで意見やアイデアを出し合い、現状に即したケアプランを作っている。変化が、みられる時、その都度、計画の変更を行い、本人・家族・関係者に報告している。	利用者と家族の意向を反映させ、主治医の意見を聞き、3ヶ月毎に職員全員で意見交換した結果を介護計画に反映して作成し、家族の確認印を得ている。利用者に変化が見られた場合は、その都度現状に即した介護計画を作成して家族等に報告している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日記録、アセスメントにも記録し、さらに変化が見られる時、その都度、個人別支援用紙に詳細に絵図も交えて担当外職員が見てもわかるよう工夫している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族が対応できないかかりつけ医の受診は、職員が同行し診断結果についても丁寧に報告している。冬の外出は大型店に出向き、買い物を兼ねて散歩や外食を楽しむよう支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の情報収集に努め、公共の施設を事業所で出来る範囲で活用している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関とは4週に1回の往診があり、24時間連絡が取れ、安心して医療が受けられるような体制が整っている。	入所時に利用者と家族の意向や希望を聞いて受診の対応、支援を行っている。かかりつけ医の受診については原則家族が行うが、状況によっては職員が対応することもある。月1回の協力医による往診があり、24時間体制をとっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員はいないが、協力医療機関から病状の把握と適切な報告の手引きの訓練を受けて、病変時の指示を仰ぎ適切な対応をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療関係者と密に情報交換を行い、早期退院への支援を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階から事業所で出来る事・出来ない事の説明は十分に行なっている。また状況に応じて主治医と相談の上、看取り体制を整えている。	利用者とその家族に対しては、早い段階で対応の可否の説明は十分に行っている。また、利用者が重度化した場合には主治医と相談の上、本人と家族と協議して看取りまでの体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に救急救命講習を受け、全職員が実践力を身に付けている。AEDの研修で、認定証を受けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い、地域緊急連絡網を作成し、地域との協力体制を築いている。	火災や災害時の避難訓練を昼や夜を想定して年2回実施している。地域緊急連絡網を作成して、地域との協力体制を築いている。地震時の防災対策についてマニュアルが整備され、備蓄品として缶詰やコンロ等を備えている。一時避難場所として町内会館を確保している。	地震時の棚からの荷物落下や電気製品、家具等の倒壊に備えて倒壊防止の安全策を充実することを期待する。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳＝相手の自主性を念頭に日頃より、使ってはいけない言葉、トイレ声掛けも羞恥心を考慮し「秘密の場所へ行きましょう」と耳元で声掛けする事に努めている。	利用者の状況に応じ声掛けや言葉使いに気を付け尊厳や誇りを損ねないように努めている。トイレはドアの内側にカーテンを設けてプライバシーにも配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定出来る様残存能力に合わせ、絵文字・ジェスチャーなどで希望・意向の把握に努め本人本位の生活が出来る様支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「待つ」介護を合言葉に一人一人のペースに合わせ希望に添った暮らしが出来る様支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の個性を尊重し、美容室、衣類購入など「おしゃれ」にも気を使う様お手伝いしている。		

グループホームいきいき岩見沢

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日頃より、個別に好き嫌いを把握し、また各自役割を持ち、職員と一緒に調理、配膳、片付けを毎食行っている。又月1～2度希望により外食に出掛けている。	利用者の体調を把握して、食事の希望を聞き献立を考えている。職員と一緒に調理や配膳を行い、率先して片付けを行っている。職員と一緒に食卓を囲み会話をしながら食事を楽しんでいる。月1～2回外食に出かけている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	状況に合わせて、おかゆ、刻み、とろみ等の対応を行い、栄養バランスや水分確保は個別に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科主治医より指導があり、本人では汚れが落ちていない時はブラッシング等の介助を行う。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排便に関しては、下剤調節や膨満感観察行う事で排便はうまくいっている。排尿に関しては、自らトイレへ行く姿が見られていない為、時間などずらしながら声掛けを行っている。	自立排泄が出来る利用者は多いが、それ以外の利用者については排泄パターンを把握して誘導している。状況を考慮して、一部の部屋には椅子の便器を備えている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時のお茶、ヨーグルトの摂取や毎日の朝夕の散歩、ラジオ体操などで便秘解消につなげている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	くつろいだ入浴ができるよう入浴剤の工夫や時間等も考慮している。	水曜日を除いて毎日午後から入浴ができる。バスクリン等の入浴剤を使って利用者がくつろげるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中野外での作業や活動を増やす事で、夜間良眠されている。又、夜間眠れない場合、足浴の対応や希望時には多少の飲酒の備えもある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方時薬剤師が来訪され、副作用や対応の説明があり、また医療ノートを作成し情報を共有し、症状変化に気付く工夫を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の生活習慣に合わせて、日常的に楽しむよう、外食・おやつ・ドライブなどの気分転換の支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常生活の会話の中から、希望されている場所、何を食べたいかを聞き取り、外食などの実行につなげている。	日々散歩したり、月1～2回車で岩見沢公園や温泉の足湯につかるために外出したりして利用者には喜ばれている。雨の日や冬は事業所の階段を利用して運動したり、ラジオ体操をして体力づくりやストレス解消に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	高齢と共に利用者からの希望は聞くよう努め、年1度でも買い物ツアーの計画を立て、支払いなどの金銭管理をして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ダイヤルで通話の設定を行い、プライベートに配慮しながら子機を使用し、居室で話ができるよう支援を行っている。手紙など郵便での希望者は職員が投函を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	音や光に気配りし、カーテンなどでまめに調節を行っている。カウンターやリビングに観葉植物や季節の花などを飾り、心地良く過ごせるよう工夫をしている。	居間にはお茶コーナーが設けてあり、自由に飲料出来る。また、壁には催しの写真やボーリングに行った時の写真が掲示され、観葉植物や季節の花を飾って家庭的な落ち着いた雰囲気作りを努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室以外に一人になれる場所として、リビング以外に室内、室外の数か所にテーブル・椅子のあるスペースを配置し、一人になれる場所を設けている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時より本人の使い慣れた家具、食器を使い、家族と相談しながら家具配置をし、心地良く落ち着いて過ごせる様工夫をしている。	居室は、家族も泊まれるような広い間取りになっており、2階の部屋にはトイレや洗面台が備えてある。また、使い慣れた家具やベッド等を配置して、居心地よく過ごせる環境になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ誘導標、階段などに歩行時の足元注意書き、動線を広くし物を置かない、配置場所を変えないなどの安全な環境作りに努めている。		